

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ブルセラ症	J Travel Med 2007; 14: 343-345	64歳の日本人男性が6週間続く発熱で1998年6月2日に都内の病院に入院した。入院時の血液培養からグラム陰性桿菌が検出され、Brucella melitensis 2型と同定された。患者は同年3月にイラクに滞在し、ヒジジのチーズを摂取したことが明らかとなった。患者の妻(60歳)が同年5月31日から発症し、Brucella melitensis が血液と関節液の培養で検出された。イラクの帰国者からその妻へ、ブルセラ症が性感染した可能性がある。
												トリパノソーマ症	CMAJ 2007; 177: 242	カナダ血液サービスは、2008年後半の血液製剤製造プロセス見直しの際に北緯49度以北では頼にしか見られないシャーガス病のスクリーニングを開始する。2種類のシャーガス病検査法がカナダ保健省の認可を待っている。供体血液の検査実施は、血小板製剤の製造を「バフィーコート」法に切り替えてからとなる。メキシコや中南米では800万人〜1,100万人がシャーガス病の保因者であり、毎年45,000人以上死亡している。カナダでは、これまでに輸血による感染が2例マニトバ州で発生した。
												トリパノソーマ症	ABC Newsletter 2007年9月14日	AABBはCDCからAABBシャーガス病バイオビザランスネットワーク強化をするための資金を受けている。2007年9月13日時点で、回復反応性供体血710件でT. Cruzi に対する抗体の追加RPA試験を行った結果、196例がRPA陽性、486例が無反応で、残りの検体については結果保留となっている。13の検査施設がシャーガスネットワークにデータを報告し、18の検査施設が報告のため同ネットワークにアクセスしている。
												トリパノソーマ症	第48回 日本熱帯医学会大会 120-02	日本におけるラテンアメリカ人の慢性シャーガス病キャリアーからの献血についての対策を検討した。カーミシ液(CPD液)を用いてT.Cruzi感染マウス血液を4℃にて1-21日間保存処理を行ったところ、マウスへの感染性は無処理のものとは異なりはなかったが、病原性はかなり減弱することが示された。しかし、T.Cruzi 虫体はほとんどの白血球除去フィルターを通過した。現在の保存血液提供システムはシャーガス病の輸血感染防止には不十分であり、対策の改善が必要である。